

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號三第卷十五第

月三年五十和昭

論叢

勢力加速度の法則……………文學博士高田保馬

日本經濟理論に於ける主體性の發展……………經濟學博士石川興二

時論

地方稅制の改革を論ず……………經濟學博士汐見三郎

研究

ナチス住宅政策の原理……………經濟學士中川與之助

金史食貨志に見はれたる貨幣思想……………經濟學士穗積文雄

貨幣の資本的考察……………經濟學士中谷實

說苑

北支に於ける人口の分布と變動……………經濟學士菊田太郎

農業に於ける保險と信用の問題……………經濟學士西藤雅夫

パウル・アルント 日本に於ける低勞賃……………經濟學士青山秀夫

附錄

彙報

外國雜誌論題

彙報

經濟學部

○助教松岡孝兒氏は昭和十五年一月三十日付を以て教授に任ぜらる。

○講師白杉庄一郎、講師青山秀夫の兩氏は昭和十五年一月三十日付を以て助教に任ぜらる。

○昭和十五年度授業擔任 内定せしもの左の如し。

經濟原論	高田	教授	統計學	財部	教授
農業經濟學	八木	教授	國際經濟論	松岡	教授
金融論	小島	教授	交通論	小島	教授
社會政策	石川	教授	植民政策	八木	教授
財政學	汐見	教授	東亞經濟政策 原論	谷口	教授
東亞金融論	徳永	助教授	西洋經濟史	堀江	助教授
日本經濟史	本庄	教授	東亞經濟思想 史	穂積	助教授
日本經濟思想	本庄	教授	東亞資源論	蜷川	教授
經濟地理	黒正	教授	日本經濟哲學	石川	教授
會計學	蜷川	教授	商工經營學	大塚	助教授
憲法	大西	助教授	民法總則	田島	教授
民法物權	石田	教授	民法親族相續	近藤	教授

2) 歐羅巴重商主義の勞賃政策の unsozial な性質を明かにしたことは、E. S. Furniss, The position of the laborer in a system of nationalism, Boston 1920. の功績である。

商法總則會社 大橋助教
 形小切手法 大森助教
 商法保險海商 大隅 教授
 刑 法 佐伯助教
 國際公法 田畑助教
 政 治 學 黒田 教授
 哲學概論 田邊 教授

經濟演習

財部教授、本庄教授、高田教授、小島教授、汐見教授、石川教授、谷口教授、八木教授、蟠川教授、柴田教授、松岡教授
 中川助教、大塚助教、堀江助教、穂積助教、徳永助教

特別講義

人口統計 財部 教授 貿易統制論 谷口 教授
 日本統制經濟 柴田 教授 計畫經濟論 柴田 教授

經濟學會

一月例會 一月二十五日午後六時より樂友會館に於て開催當日の報告次の如し。

一 支那の經濟性格に關する一考察 穂積助教

支那經濟の性格を半封建性、半植民地性に於て把握することは今日殆ど通説の觀があるが、その意義は未だ必ずしも明確ではないので、それを明確にせむとして、先づ封建制の本質を闡明し、封建性の本質より封建性の概念を規定し、封建性の概念より更に半封建性の概念を導き出し、半封建性の概念に該當するものが支那經濟に存在することを立證し、そしてそれが支那

經濟を他の經濟より區別する大きな役割を果す所以を論證し、次に同様に植民地の本質より植民地性の概念とそれより更に半植民地性の概念を引き出し、それに該當するものが支那經濟に存在することを立證し、それが支那經濟を特質づける所以を論證し、最後に半封建性と半植民地性との關係並に半封建性、半植民地性とそのカウンターパートたる半資本主義性、半自主性との關係に及ぶ。

二 支那土着銀行

鈴木総一郎氏

從來の金融研究方法を批判して、現象的取扱を排撃し、報告者の持論たる具體的・綜合的研究方法を述べて、その立場より支那金融機構の解明を試み、その企圖の第一着手として支那土着銀行、就中山西票莊に關して報告した。先づ票莊の成立より初めて組織及び經營方法を概説し、票莊が支那社會自體より自立的に發生したる成立原因よりして、特に支那社會一般との關係を追究し、機構的特質として非合理的なるものを把え、これはやがて土着銀行といはれるものゝ一般的特質であると斷定した。これと共に當時の專制的官僚國家の性格を分析して、それとの具體的關聯に於て、山西票莊の特徵を把え來り、官僚との相互利益の結合に於てこれを認めた。かくして、一方に於て、票莊の歴史的・具體的特徴を見ると共に、他方に於て支那固有金融機關一般としての特質を究明して、綜合的研究の端緒的試みとしての報告を終つた。

出席者―石川・谷口・大塚・堀江・中谷・穂積・白杉・青山・出口の

彙報

諸先生、菊田・青盛・前田・山本・馬場・山崎・鈴木・堀江（英）の諸氏。

○會員勳酬

第五十卷 四〇二 第三號 一二六